



21:16 そこで、会衆の長老たちは言った。「あの残った者たちに妻をめとらせるにはどうしたらよかるう。ベニヤミンのうちから女が根絶やしにされたのだ。」

17 ついで彼らは言った。「ベニヤミンののがれた者たちの跡継ぎがなければならぬ。イスラエルから一つの部族が消し去られてはならない。」

18 しかし、私たちの娘を彼らにとつがせることはできない。イスラエル人は、『ベニヤミンに妻を与える者はのろわれる』と言って誓っているからだ。」

19 それで、彼らは言った。「そうだ。毎年、シロで主の祭りがある。」—この町はベテルの北にあって、ベテルからシェケムに上る大路の目の上の方、レボナの南にある—

20 それから、彼らはベニヤミン族に命じて言った。「行って、ぶどう畑で待ち伏せして、21 見ていなさい。もしシロの娘たちが踊りに出て来たら、あなたがたはぶどう畑から出て、めいめい自分の妻をシロの娘たちのうちから捕らえ、ベニヤミンの地に行きなさい。」

22 もし、女たちの父や兄弟が私たちに苦情を言いに来たら、私たちは彼らに、『私たちのため、彼らに情けをかけてやってください。私たちは戦争のときに彼らのひとりひとりに妻をとらせなかったし、あなたがたも娘を彼らに与えませんでした。もしそうしていたら、あなたがたは、罪に定められたでしょう』と言います。」

23 ベニヤミン族はそうにした。彼らは女たちを自分たちの数にしたがって、連れて来た。踊っているところを、彼らが略奪した

女たちである。それから彼らは戻って、自分たちの相続地に帰り、町々を再建して、そこに住んだ。

24 こうして、イスラエル人は、そのとき、そこを去って、めいめい自分の部族と氏族のところに帰って行き、彼らはそこからめいめい自分の相続地へ出て行った。

25 そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

ここでもまた勝手な解決法が取られます。ベニヤミン族には娘を嫁がせないと誓った結果、彼らにシロの娘を略奪するように勧めたのです。しかも苦情を言う父兄に対しては、「罪に定められ」とまで言うとは、神への罪を持ち出して強行するという、全くの自己中心です。

自分の主張を正当化するために、神の権威を持ち出すというのは大きな罪です。時にクリスチャンは自分の主張を正しいと信じるあまり、神がそう語っておられると思い、混同してしまうことがありますから、気をつけなければなりません。常に神のことばである聖書に照らし合わせ、現実には神の栄光と平和を求めて判断してゆく必要があります。共同体としてのクリスチャンの総意もまた指針になります。

士師記に記されていることは、何重にも入り組んだ不信仰とその結果です。しかし人々は「めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」というように、自分の不信仰に気づかないでいたのです。もしも主の教えに従って礼拝し、生きていれば回避できたものも多かったのですが、そのチャンスを自ら放棄していたところにも混乱の原因がありました。

クリスチャンのあるべき姿から逸脱することなく、また事に応じて聖書から主のみこころを聞き、そして従って生きましょう。「自分は正しいと思う」では士師記のようになってしまいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

